

2015年度 事業報告書

特定非営利活動法人 アジア女性自立プロジェクト

I 事業概観

概要	成果と課題
<p>法人化 2 年目にあたり、前年度懸案だった財政基盤の強化に取り組んだ。第一に、フェアトレード事業の収益向上を最優先として掲げて、組織の財政基盤を改善に集中させてきた。</p> <p>一方で、2015年4月25日ネパール大地震により甚大な被害が発生し、被害女性への支援、人身売買の被害の拡大を防ぐための活動に重点を置き、募金活動と支援キャンペーンを展開した。</p> <p>また AWEP のウェブサイトとパンフレットの英語版を作成し、日本語以外のユーザーにも情報を伝えられるようにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人々から関心と支援を得ることができ、緊急支援およびその後の復興支援を展開できた。 ・ネパール地震支援活動によって通常のフェアトレード事業の赤字を補う副次的効果を得ることができた。 ・支援活動を通じてメディア等にもアピールでき、AWEP の社会的認知度は高まった。 ・課題として、フェアトレード事業の収益改善の問題は残っており 2016 年度の活動の中で取り組む必要がある。

II 事業の実施に関する事項

1 海外事業

(1) フェアトレード等を通じた女性の自立を促進する活動

実施内容	成果と課題
<p>2015 年度の仕入れは次の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外仕入費 <ul style="list-style-type: none"> フィリピン 271,242 円 タイ 108,906 円 インドネシア 276,620 円 ネパール 1,317,695 円 (内、キャンペーン製品 633,788 円) 合計 1,974,463 円 ・国内仕入費 277,357 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外仕入費は昨年度よりキャンペーン製品の分だけ増加したが、売上は仕入れの増加を反映しなかった。 ・売れ残り全額を T シャツが占める。キャンペーン終了後は、おおむね 9 月頃まで原則正価で販売を継続し、その後は価格を下げて 2016 年度中の売り切りを目指す。イベント等での販売を強化していく。

① フェアトレード生産者のエンパワメント

生産者	実施内容・生産者状況	成果と課題
Lampara house (フィリピン)	<ul style="list-style-type: none"> ・通常通りの製品発注。 ・サイバースカイネット（企業）からの受注があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注文品の間違いが発生した（バティックブラウス） ・サイバースカイネットからの受注と支払いに

	<ul style="list-style-type: none"> ・経費問題で事務所移転した。 	<p>滞りがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ティナラック素材の製品発注ができなかった。
APIKRI (インドネシア)	<ul style="list-style-type: none"> ・通常通りの発注。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不良品（サイズ違いなど）の発生し、現地渡航者に預けて返品した。 ・納品遅れが発生した。
KPTB (インドネシア)	<ul style="list-style-type: none"> ・秋物ショール発注。 	
BTF (タイ)	<ul style="list-style-type: none"> ・新製品と定番製品を発注。 ・2016年2月にAWEPメンバー4人でBTFを訪問し現地メンバーとの交流を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ製品の人気は変わらず販売状況も良好。 ・BTFのメンバーが減って2人で作業をしているため、製品発注したものの納品が遅れている。
KABW (ネパール)	<ul style="list-style-type: none"> ・地震被災者への義援金送る。 ・製品発注は行わず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・震災1ヶ月後、渡航時に被災した生産者へ義援金を届けた。今後発注で支援してほしいとの要望があった。 ・売れ行きの問題からビーズやニット製品の注文は控えるが、生産者団体は他団体からの大口注文があるため影響は大きくないと思われる。
Shakti Samuha (ネパール)	<ul style="list-style-type: none"> ・地震被災者への義援金送る。 ・LUSHの助成金を活用して、被災者支援のキャンペーン実施。チャリティグッズ(Tシャツ446枚、バッグ245枚)を制作し売上の一部を支援金とした。 ・Shakti Handi Craft Pvt.Ltd.で会社として別組織を設立し、生産することになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LUSHの助成金及び緊急募金を活用できたおかげで、被災者支援 Share the Hope キャンペーンを規模を広げることができた。 ・チャリティグッズ開発の際、外部のデザイナーに依頼したものの採用できなかった。 ・チャリティグッズ価格の設定を見誤ったため（小売店への卸価格）チラシのミスが発生して再印刷したため経費が増大した。 ・チャリティグッズで移染などが発生し販売不可能な製品が多数発生。 ・募金の残額40万円程度はカウンターパートからの事業計画を検討したうえで送金する予定だが、一度出された計画は具体性に乏しいため再提出を求めているがいまだ提出されていない。計画策定のサポートが必要な状況。現地渡航時を待つ策定し直しの見込み。

②国内販売活動によるフェアトレードの促進

項目	実施内容	成果と課題
製品企画開発	製品会議 (12/16,1/13 他)	・発注や新製品開発について集中的に議論がで

		き効果的な開発につながっている。 ・2016年度も継続して開催する。
製品管理 品質管理	製品が傷まないように袋詰めするなど、管理に工夫をした。	・タグの付け方が統一されていなかったため、統一する。
販売促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット販売をショッピングモール型のSoooooS.と独自サイトのBASEの2つのサイトで開始した。 ・卸販売した店舗数は58件であった。 ・店舗メールを7回発信した。 ・店舗でのフェアを5回実施した。 ・費用対効果を考慮し、イベント出店を絞り、2015年度は19回、延べ19日イベント販売を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SoooooS.が20,088円、BASEが82,944円と売上に開きがあった上、手数料の差があり、収益はBASEの方が高い。2016年度はBASEをAWEPサイトのトップに掲載し、ネット販売を促進する。他方SoooooS.ではAWEPの認知を高める意味でも掲載を継続し、新たな顧客層に届くようにする。 ・店舗メールで取引が途絶えていた店舗と取引再開された。 ・2016年度も適宜店舗メールを発信していく。(12回目標)

(2) 女性のエンパワメントに資する活動

項目	実施内容	成果と課題
スタディツアー	実施せず	<ul style="list-style-type: none"> ・企画実施の余力がなく、見合わせた。 ・スタディツアーのあり方を見直す必要がある。

2 国内事業

(1) 日本に住む外国人女性の生活相談や情報提供を通じた生活支援

項目	実施内容	成果と課題
① 生活相談事業	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日に電話相談、及び来所による相談対応(13件) ・NGO神戸外国人救援ネットをはじめとした関連団体への紹介・面談同行といった対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容には、夫からの暴力とそれに伴う離婚手続きなどの深刻な相談、県外からの電話もあった。 ・連携によって効果的な支援を行うことができた。 ・過去の相談事例の整理・検討、連携先の情報整理、相談票等の書式の改定が未着手であるので、これらを実施し、今後の相談事業の在り方の整理を進める。
② 情報提供事業	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしん通信の発信(No.196からNo.218まで全23回) ・ガイドブック『2013年度版 外国人 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信の送信先アドレスの未達が多く、登録メールアドレス確認が必要 ・通信の内容・情報源の整理などの事業の基本

	<p>女性のための役だつインフォメーション』タガログ語版冊子作成（500部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体ホームページの固定的な情報を中心に英語版を作成 ・パンフレット英語版作成（2000部） 	<p>的な部分の整理が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール発信だけでなく、FB・団体 HP 掲載との連携を進め、通信内容の充実を通じて登録者の増加をめざす。 ・ガイドブックは、2013年度版の在庫（約120部）があるため、ポルトガル語版とともにタガログ語版の配布計画を立て配布をすすめる。 ・ホームページ・パンフレットの英語版を活用することにより、外国人住民の当団体の認知度を高め、より多くの外国人住民に必要な情報を届けていく。
--	--	---

（2）共生社会を創り出すための交流・啓発・アドボカシー活動

項目	実施内容	成果と課題
①他団体との関係強化	<ol style="list-style-type: none"> 1. NGO神戸外国人救援ネット <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員に鋤柄理事 ・運営会議出席（毎月第2月曜日）。 ・神戸市DVセンター研修に講師として協力（外国人DV被害者支援現場における通訳シミュレーション）（2016年3月2日 於：あすてっふ神戸）。 2. ひょうごDV被害者支援連絡会（HYVIS） <ul style="list-style-type: none"> ・HYVIS代表に鋤柄理事（2016年度末まで） ・兵庫県内の女性支援団体との定例会議出席（4月、6月、8月、10月、11月、1月の6回）。神戸市、兵庫県、明石市のDV被害者支援担当者との懇談。 ひょうごDV防止ネットワーク会議出席（11月18日）。 ・兵庫県DV被害者支援強化事業公開講座『ハーグ条約締結後の動きと問題点』の実施（2016年2月27日 於：あすてっふ神戸 参加者22名） 3. 「移住労働者と連帯する全国ネットワーク」 全国フォーラムにもりき理 	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度は、救援ネットとHYVISの定例会、関係会議等にはほぼ欠かさず参加することで、情報共有と交流を図り、連携を深めることができた。 ・今後も積極的に活動に参加して、団体として各活動に貢献をしていきたい。

	事が参加（2015年6月13日、14日 於：北九州市）。	
②勉強会、セミナーの実施	・2016年1月23日（土）ネパール支援イベント「関西ネパールフェスティバル〜一緒にやろやネパール震災復興応援団」を芦屋市立あしや市民活動センターで開催。	・出展参加団体が11、来場者はおおよそ100名、地元紙にも記事が掲載され、ネパールへの関心を高めることができた。 ・企画していた「料理でつながるアジアと私」はネパール支援を優先したため2016年度に実施を延期した。
③通訳翻訳依頼のコーディネート	・英語翻訳1件（鋤柄）	・2016年度も依頼内容や条件を考慮して請け負う。
④講師派遣	・派遣2件 ・2015年8月JICA研修（奈良） ・2015年10月（特活）すまみらい（奈良）	・講師派遣事業の打ち出しを本格的に行えていなかったが、今後は収益事業の1つとして積極的に進める。
⑤連携事業	関西学院大学社会連携事業で講義協力をした（クッキー販売を通じたネパール地震復興支援）（大森、奈良）	・製品開発と販売をサポートすることにより学生の学びを支援することができた。 ・開発されたクッキーの継続販売の可能性が生まれた。 ・AWEP自体との繋がりは弱かった。

3 組織運営・その他

項目	実施内容	成果と課題
ニュースレター	No.42（2015年6月）、No.43（2015年12月）の発行（No.42：500部 No.43：700部）	・紙面で配布するとともに、ウェブサイトにも掲載し、広く活動を紹介することができた。また国外在住の会員も読めるようになった。
ボランティア	・ボランティア活動のべ140人/日 ・ボランティアメールを7回発信した。	・学生のボランティア1名が定期的に参加、従来から活動するメンバーも継続してAWEPを支えた。 ・インターン学生など若者世代も参画しやすい受け皿を整えたい。
広報ツール	・リーフレット改訂版発行（2000部） ・リーフレット英語版発行（2000部）	・増刷を期に改訂実施。また英語版を作成して・広報ツールを拡充した。
ファンファンパーティ（資金開拓）	未実施	・ネパール支援等を優先し体制に余力がなかったこと、費用対効果の面から鑑み、実施できなかった。

		・現在の体制で可能な資金開拓の方法を検討する必要がある。
AWEP 説明会	・6回開催（参加者14人）	・AWEPの社会的認知が広まるにつれて積極的にPRしていないにも拘わらず、説明会に参加する人が増えた。 ・講師派遣と合わせて打ち出しを検討したい。

4. 助成金の実績

助成金名	事業名	助成額	内容
ラッシュジャパンチャリティバンク	ネパールの人身売買被害女性との協働による啓発キャンペーン	1,651,600円	ネパール地震被害女性支援を通じた人身売買問題への啓発
真如苑社会貢献活動助成	学生・福祉作業所との連携によるネパール震災被害女性支援プロジェクト	237,000円	チャリティクッキー開発販売を通じた支援、啓発
公益信託 神戸まちづくり六甲アイランド基金	在日外国人女性に向けた情報発信・相談活動とその促進事業	500,000円	相談事業、あんしん通信事業、『外国人女性のための役だつインフォメーション』タガログ語版作成
公益財団法人 兵庫県国際交流財団	『外国人女性のための役だつインフォメーションタガログ語版』の作成およびその活用状況調査	100,000円	『外国人女性のための役だつインフォメーション』タガログ語版の作成

III 事業の実施体制

項目	内容
会議	①理事会 2015年4月25日、8月8日、11月4日、2016年3月19日 ②事務局会議 原則毎月第1水曜日に開催
事務局の体制	<有給スタッフ> ①事務局長代行：奈良雅美 代表理事 ②総務・財務：鋤柄利佳 理事 ③海外事業統括：大森恵実 理事 ④国内事業統括：鋤柄利佳 理事 ⑤海外事業国内部門：村上菜摘 理事 <定期事務局ボランティア>（五十音順） 井之上章子、いなだ多恵子、岡内克江、笠原幸子、鹿嶋節子、チェイス洋子、西谷紗

	恵、もりきかずみ、吉田和代、矢野淳子
会 員	運営会員 29名 賛助会員 57名 *2016年3月末現在
他団体との連携	<p><地域></p> <p>特活) たかとりコミュニティセンター (神戸市長田区) : 同センター所属のメンバーとして連携し地域の活動に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定例連絡会 (毎月第1、3土開催) ・ 理事会へ理事として出席4回開催) <p><女性支援・外国人支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NGO 神戸外国人救援ネットの運営委員としての活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営会議出席 (毎月第2月曜日) ・ 神戸市 DV センター研修に講師として協力 (外国人 DV 被害者支援現場における通訳シミュレーション) (2016年3月2日 於: あすてっぷ神戸) 2. ひょうご DV 被害者支援連絡会 (HYVIS) の構成団体としての活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 兵庫県内の女性支援団体との定例会議出席 (偶数月第4水曜日) ・ 兵庫県DV被害者支援強化事業 公開講座『ハーグ条約締結後の動きと問題点』の実施 (2016年2月27日 於: あすてっぷ神戸 参加者22名) 3. NPO 法人移住労働者と連帯する全国ネットワークの正会員としての活動 全国フォーラムに参加 (2015年6月13日、14日 於: 北九州市) <p><国際協力></p> <p>特活) 関西 NGO 協議会 (大阪市) : 準会員として参加。JICA 研修にサブコーディネーターとして協力した。</p>



1月23日ネパール支援イベントにて



神戸新聞(2015年5月8日)



2016年5月21日

イベントでの販売の様子